

主の言葉に従って

ルカ5:1~11 / 李正雨師

今日の福音書には、イエスさまの弟子たちの中で漁師であった人々の物語が書かれています。彼らがどうしてイエス様の弟子になったのか、イエス様のお招きと彼らの決断が書かれています。いつも私は、お召しにすぐ応じた弟子たちの姿を見て、本当に素晴らしい人々だと思います。どうして自分のすべてのものを捨ててイエス様に従うことができたのだろうか。だから彼らがイエス様の弟子になったのだらうと思いました。ところで、今回の説教を準備するために読んだ今日の福音書で、私は、以前は気づかなかったことをいくつか見つけることができました。そして、もちろん弟子たちの決断は素晴らしいことですが、彼らが偉かったので、そのような決断を下したわけではなかったという思いがしました。すべてがぴたり合うパズルのように、神様が彼らの状況を導かれたこともあるかもしれないと思いました。つまり、彼らは素晴らしい決断を下して弟子になったのではなく、神様が彼らを弟子として招かれるために、彼らの状況を導かれたということです。今日の福音書を読みながら一つずつ調べてみましょう。

今日の福音書は、イエス様がゲネサレト湖畔に立ておられることから始まります。ここでのゲネサレト湖は、私たちが知っているガリラヤ湖の別の名前です。教会の近くにある飯能川が入間の方に流れていくと、入間川になるように、地域と時代によってこの湖を呼ぶ名前は違いました。旧約時代には、この湖はキネレト湖（民34：11）と呼ばれ、イエス様の時代には、ガリラヤ湖（マルコ7：31）、ゲネサレト湖（ルカ5：1）、ディベリアス湖（ヨハネ6：1）などと呼ばれていました。今日の福音書で、イエス様はこの湖畔に立ておられ、群衆は、神の言葉を聞こうとしてイエス様のところに集まってきました。群衆がイエス様のところに集まってきたということは、イエス様のことがその地域の人々に広がっていたということでしょう。イエス様のことを聞いたゲネサレト湖の地域の人々、つまりガリラヤの人々は、イエス様から神の言葉を聞くために、または癒されるためにイエス様のところに集まってきました。イエス様の弟子になった漁師たちもガリラヤの人だから、イエス様についての話を聞いていたのだと思います。

この時イエス様は、ゲネサレト湖の岸に二艘の舟があることを御覧になりました。漁師たちは網を洗っていました。網を洗うということは、漁業が終わったことを意味します。イエス様は漁業が終わった一艘の舟に乗られましたが、その舟はシモン、すなわちペトロの舟でした。イエス様は、シモンに舟を岸から少し漕ぎ出すように頼まれました。シモンはイエス様のお頼みを聞いてくれました。この場面で私たちが推測することができるのは、シモンはイエス様のことを良く思っていたということです。そうでなければ、イエス様のお頼みを聞いてくれることもなかったでしょうし、自分の舟に乗ることも許さなかったでしょう。シモンもイエス様のことを聞いて、イエス様のことを肯定的に思ったので、イエス様のお頼みを拒否しなかったのだと思います。

舟に乗られたイエス様は、群衆に神の言葉を教えられました。この教えを聞いた人は、集まってきた群衆だけではなく、網を洗っていた漁師たちも、イエス様の言葉を聞いたと思います。イエス様は、ご自分のお話が終わると、シモンに漁業を再開するように言われました。4節の言葉です。「話し終わったとき、シモンに、『沖に漕ぎ出して網を降ろし、漁をなさい』と言われた。」私は漁をしたことがないので分かりませんが、洗った網を再び降ろすのは、簡単ではないことだと思います。その上に漁師たちは夜通しに漁業をした後でした。疲れてくたびれた状況でした。さらに、網を降ろしなさいと命じた人は、漁師ではなく、御言葉を教える人でした。他の人であれば、とんでもないことだと思います。イエス様の言葉に従わなかったと思います。しかし、シモンは違いました。5節の言葉です。「シモンは、『先生、わたしたちは、夜通し苦労しましたが、何もとれませんでした。しかし、お言葉ですから、網を降ろしてみましよう』と答えた。」

どうしてシモンは、イエス様の言葉に従うことができたのでしょうか。ここについての考えは皆違うと思いますが、私は、シモンはすでにイエス様のことを知っており、網を洗いながらイエス様の教えを聞いたから

だと思えます。イエス様のことはペトロに良い認識を与え、イエス様の教えはその認識が確信に向かって行くように動いたと思えます。神様の計画の下で、お召しというパズルが完成しているのです。シモンと漁師たちはイエス様の言葉に従って沖に漕ぎ出して網を下しました。そして網が破れそうになるほど、たくさんの魚を取りました。それに対する彼らの最初の反応は、他の舟の仲間を呼ぶことでした。目の前に広がった奇跡に、彼らは夢中になって魚を舟に乗せました。7節の言葉です。「そこで、もう一そうの舟にいる仲間合図して、来て手を貸してくれるように頼んだ。彼らは来て、二そうの舟を魚でいっぱいにしたので、舟は沈みそうになった。」何もとれなかった湖で、二そうの舟が沈みそうになるほど、いっぱいになったのです。

漁師にとって、この奇跡は大きな幸運のようなものだったと思えます。しかしイエス様の存在を認識していたペトロにとっては、幸運だけではなかったようです。ペトロはイエス様にこのように言います。8節の言葉です。「これを見たシモン・ペトロは、イエスの足もとにひれ伏して、『主よ、わたしから離れてください。わたしは罪深い者なのです』と言った。」皆様はなぜペトロがこのような反応を示したと思えますか。これに対するいくつかの解釈がありますが、大きく二つにまとめることができます。一つは、神的存在に出会うとき、自然に与えられる恐れのためだということであり、もう一つは、ペトロの仕事が律法に触れることのためだということです。神的存在を恐れる反応は、ユダヤ人に目立つことです。その理由は、神様が自分を裁くためではなく、自分が持っている罪によって裁かれるという考えがあるからです。創世記32章31節でヤコブは、「わたしは顔と顔とを合わせて神を見たのに、なお生きている」と言い、イザヤ書6章5節でイザヤも、「わたしは言った。災いだ。わたしは滅ぼされる。わたしは汚れた唇の者。汚れた唇の民の中に住む者。しかも、わたしの目は王なる万軍の主を仰ぎ見た」と言います。だからペトロも、イエス様に自分から離れてくださいと言ったのだということです。

そしてもう一つは、ペトロの仕事、漁業が律法に触れることをするしかないということです。レビ記11章9節の以下を見ると、ユダヤ人が食べることができる魚とそうでない魚が区別されており、食べられない魚は汚らしいもの、その死骸も汚らしいものとして扱えと書かれています。ところが、漁をしてみると、この汚らしい魚も触れるしかありません。そのため、漁師たちは清めの儀式を通して、自分をきれいにしなければならないのに、ペトロはたくさんの魚を取れた後、まだ清めの儀式を行っていない状況です。だからペトロは、イエス様が自分によって汚れることがあるので、自分から離れてくださいと、自分は罪深い者だと言ったのです。

どちらが正しい解釈なのかは分かりませんが、このすべてのことは、イエス様とペトロに何の影響も与えませんでした。神的存在に出会ったペトロも死なず、イエス様も汚れませんでした。この二人の出会いには、ただ神様の計画だけがありました。ペトロの覚悟や決断、イエス様の強圧的な要求などはなかったということです。そしてこのような状況から、イエス様はペトロを召されました。イエス様はペトロにこのように言われます。「恐れることはない。今から後、あなたは人間をとる漁師になる(10節)。」イエス様はペトロがお召しに答えることができるように、十分に、徐々に、ご自分を表され、彼を弟子として召されました。11節には、「彼らは舟を陸に引き上げ、すべてを捨ててイエスに従った」と書かれています。ペトロだけでなく、より多くの漁師がイエス様に従ったのです。それだけでなく、彼らは自分のすべてのものを捨ててイエス様に従いました。自分たちの人生で、より重要なことが何なのかを悟ったからだと思えます。神様が彼らに、満船よりも重要なものが何なのかを教えてくださいました。

今も神様は、私たちをこのように導かれると思えます。ある人は自分が神を選び、自分が神の言葉に従っていると思えます。しかし、神様はすべての状況を通して私たちを召され、私たちを導いておられます。私たちが主の言葉に従っているのではなく、神様が言葉に従えるようにしてくださるのです。だから私のような資質や能力の足りない人も牧師になれたのだと思えます。神様は私たち皆をご自分の子供として召されました。そして私たちをご自分の子として、世の光と塩として生かしてくださいました。この驚くべき神様の恵みが皆様のことを導かれますように。いつも主の言葉に従っている皆様になりますように、主の御名によって祈ります。アーメン